

東が丘・立川看護学部の授業評価結果に対する考察（平成 25 年度）

副学長・学部長 山西 文子
副学長 草間 朋子

- 平成 22 年度にスタートした本学部は、平成 25 年度には完成年度を迎え、初めての卒業生を社会に送り出すことができました。看護師の国家試験の合格率も 96%で、全国平均を大きく上回ることができました。これも、一期生の 4 年間の頑張りはもとより、実習等でお世話になった患者さんや実習施設の管理者、実習指導者の皆様方のご協力、ご支援の賜物であったと、学生共々感謝いたします。
- 今回の授業評価は、全授業科目 103 科目に対する述べ 9,195 人(対象 10,115 人)の学生の授業評価で、回答率は 91%でした。約 9 割の学生が授業評価に参加しており、授業評価の重要性に対する学生の意識が高いことを示していると考えています。
- 学生の授業に臨む姿勢に対する 3 つの項目(授業態度、出席率、積極性)の学生の自己評価は、講義・演習科目及び実習・実験科目を合わせて、87%がポジティブな回答をしております。特に実習・実験科目に対する自己評価は、90%以上の学生がポジティブな評価をしております。これは、本学部が、1 年次から看護に関する授業科目を取り入れ、看護に必要とされる基盤的知識・技術の修得も重視した系統的なカリキュラム構成をしている結果であると考えています。
- 授業内容に関する評価では、将来の役に立つ授業内容であると認識し、関心を持って授業に臨んでいる学生が 80%を超えており、これも 1 年次から看護に対するモチベーションを高めるカリキュラムを組んでいることの成果の一端であると考えられます。しかし、授業内容が十分理解できていないと自己評価した学生が、昨年同様、20%近くいることを真摯に受け止め、改善に向けて積極的に取り組む必要があると考えております。FD 活動等を通して、教員間のコミュニケーションを図り、限られた時間内の教育を効果的・効率的に行う工夫をする必要があると考えております。また、今回、初めて授業評価の対象になった、ナレッジ統合実習、マネジメント実習、卒業研究に関しては、領域毎の指導等の格差が出ないように、教員間の情報交換をさらに密に行うことが必要であると考えております。
- 教員の教育姿勢についての学生からの評価は高く、教員が教育活動に積極的に取り組んでいることが授業評価からも示唆されました。授業評価の結果を参考にさらなる改善を重ね、学生、教職員が一体となって、“tomorrow’s Nurse”の育成に取り組んでいきたいと思っています。